

## 安浪と安波

安波 利一

我々一族は、明治の新戸籍までは安浪、新戸籍以降は安波を称している。亡父利夫にこのいきさつを訊いたことがあるが、明治の村吏員の誤記であるとのこと。しかし、私の推測では「安っぽい浪人」よりも「安らかな波」を意図的に村吏員にお願いしたのではと思つてゐる。

ところで、本家筋の老女が、かつて、私に、先祖の中に肥後に行ったままの者がいると語つたことがある。その後、九電の重役（現FBS放送会長）に安浪栄基なる人物が、熊本出身であることを知り、ひよつとすると関係があるのではないかと、早速アプローチをしたが、返事がかえつてこなかった。

そこで、熊本日日新聞に安浪について照会したところ記事になつたようで、熊本県内より数多くの連絡があつた。熊本県内数ヶ所に安浪姓が存在し、本家は、熊本市

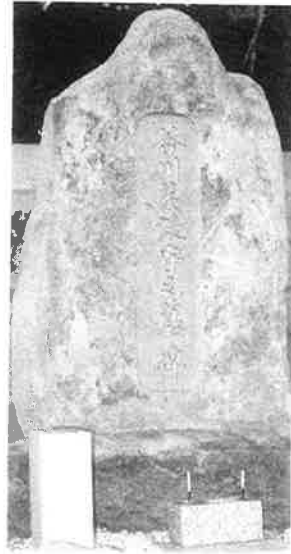
市川尻、安浪栄基氏もその家出身と判明した。いよいよ撃りがかめるかと、その本家に電話して、先祖の出身は別府ではないかと訊いたが、鹿児島山の谷山の出身と聞いてゐるとの返事でガックリ。だが、先祖の職業が類似しており、今後家紋調査などお互いの交流を深め、親睦を図りたいと思つてゐる。

そうこうしているときに、大分銀行の知人より医科大學前支店に安浪姓の女子行員がいるが関係あるかと訊かれて驚いた。電話帳で調べたところ、大分市横瀬に二軒ある。電話を入れたところ、過去にこちらから調査に伺つた人があることを知つた。年賀状を交換するようになったので、近く訪問したいと考えてゐる。

その他、宇和島にもあるというが、それが安浪か安波なのか確定してゐない。

旅をすると、その他の電話帳に安浪又は安波がないか調べるのを楽しみにしている。東京の電話帳に案波が増えているのは嬉しい限りである。

最後に、「別府史談」創刊号で矢田保氏が、〃局観音の由来について〃書かれている。我々安波一族の先祖が



北鉄輪ギ丁場  
谷川美濃守の墓碑

谷川美濃守と聞いているだけに、嬉しい玉槨であった。  
ただ、その中で二三気なる個所があるので触れさせて  
もらいます。

まず、谷川美濃守の山城が宇土山となっているが、我々の口伝では、大字野田字フジガ城となっている。このフジカ城については、ある郷土史家からも話を聞いたことがある。なお、平素の屋敷は、大字鉄輪字トノヤシキにあり、また墓所は大字鉄輪字ギ丁場にあったと伝えられている。

次に、「依て谷川姓を改めて、水月観音菩薩に因み水波平らかにして万民安穩を期し、安波を以て姓となす」とあるが、これは安波ではなく、安浪が正当である。その場合に改正のいわれは、不自然になるように思える。大正時代に作文されたのではなからうか。谷川美濃守の追悼碑が今春大字鉄輪字ギ丁場の墓所に建立された。これは、安波本家一四代末亡人の手によってである。永眠は弘治三丁巳二月一六日、また、位牌は本家が代々お守りしている。

## 大友陣屋

「石垣原合戦の次第覚書」久我四郎三郎ヨリ

「慶長五庚子年九月初旬 大友左兵衛義統 防州山口

ヨリ進発 従大畑乗船 九月九日豊後浜脇浦ニ着船

同日夜五ツ時立石エ御入陣 即本陣立石邑古屋園ニ有

合之宅ヲ陣屋トス

吉弘嘉兵衛ハ 同村坂本ト云ニ陣ヲ居 即有合之農

家ヲ陣屋トス

宗像掃部ハ 同村御同之原ト云ニ陣ヲ居 是モ有合

之農家を陣トス